

はきものをそろえる

広島県 浄久寺 住職 多飯裕慧

私が、大本山永平寺で修行をしていたときのことです。永平寺では、生活そのものが「修行」であると教えられます。

ある日坐禅の修行のために、私は自分が座る畳へ上がり、スリッパを揃えました。その時、ふと顔を上げると、向かいで坐禅をしている修行僧のスリッパが乱れているのが付きました。その方は、永平寺に上がってこられたばかりの修行僧でした。おそらく座禅の作法を覚えるのに必死で、スリッパを揃えることを忘れてしまっているようでした。

私が、その方に声をかけようと思ったその時、先輩僧侶がやってきました。そして何も言わず、すつと腰をかがめて修行僧の乱れたスリッパを直しました。私はその様子を見て、永平寺にあるポスターを思い出しました。そこにはこう書かれています。

「はきものをそろえる」—はきものをそろえると心もそろって心がそろって、はきものもそろってぬぐうときにそろえておくとはくときに心がみだれないだけかみだしていたらだまってそろえておいてあげようとするればきつと世界中のひとの心もそろってしよう—と。

修行僧のスリッパを揃えた先輩僧侶は、そのあと何も言わず、自

分が坐禅をする畳に上がり静かに自分のスリッパを揃えていました。もしかすると、先輩僧侶は永平寺に修行に来たばかりで、何もわからず四苦八苦していた昔の自分を思い返していたのかもしれない。だから、かつての自分を見ているようで、自分のはきものを揃えるように、スリッパを揃えてあげたのではないのか、今ではそのように思っています。

修行僧は、坐禅を終えてスリッパを履いたとき、誰かが自分のスリッパを揃えてくれたことに気づいたかもしれません。また日々の生活においても、自分が人の優しさにどれほど支えてもらって生きているのか、気づいたのではないかとも思います。

人に優しくされた人は、受けた親切と共に人に優しくする心も受け取るのではないのでしょうか。先輩僧侶が修行僧に示した優しさを目にした私も、乱れたはきものを見たら、だまって揃えてあげたいと思うようになりました。そして、その人の心に寄り添うことの出来る人でありたいと思います。そのようにして、隣の人から隣の人へ思いやりの輪が広がり、世界中の人に優しさのバトンが渡せることを願っています。